



カケハシ・プロジェクト（米国／カナダ） ジャパンボウル招へいの記録

1. プログラム概要

【目的・概要】米国及びカナダにおいて高校生を対象に毎年開催されている、ジャパンボウル大会^{（注）}の成績優秀者らが、東京都、福島県を訪問し、ホームステイや学校交流、視察や政府関係者等との交流を通じて、日本文化や社会、歴史について理解や知識を深めるとともに、親日度の一層の深化と参加者同士のネットワーク強化を図ることを主目的として実施しました。

（注）米国・ワシントン D.C. で 1992 年に発祥した、日本語を外国語として履修する高校生が、日本語と日本文化の知識を競うクイズ大会。

【参加者】ジャパンボウル入賞者 米国・カナダの高校生、大学生 24 名及び引率者 3 名 合計 27 名

【訪問地】東京都、福島県

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

7 月 11 日（木曜日） 【来日前（渡航前）オリエンテーション】 事業目的・ミッション、日程説明、
渡航上の注意、感染症対策等
来日までの指定期間 【動画視聴】日本理解講義（Web Japan より選択）

■ 招へいプログラム：

7 月 17 日（水曜日） 成田国際空港及び羽田空港より入国
【来日時オリエンテーション】
7 月 18 日（木曜日） 【表敬訪問】（米国）在日米国大使館 駐日米国大使 ラーム・エマニュエル 氏
【表敬訪問】（カナダ）在日カナダ大使館 広報部 参事官 マット・フレイザー 氏、一等書記官 スティーブン・ラポイント 氏
【表敬訪問】高円宮親王妃久子殿下
【視察】須賀神社
【表敬訪問・交流】（米国）一般社団法人 日米協会
【視察】（カナダ）銀座
7 月 19 日（金曜日） 東京都から福島県へ移動
【視察】福島県環境創造センター（コミュタン福島）
【学校交流】福島県立喜多方高等学校
【ホストファミリー対面式】一般社団法人 喜多方観光物産協会
【ホームステイ】喜多方市

7月20日（土曜日）	【ホストファミリー歓送会】 【文化体験】赤べこ絵付け体験、レンガ蔵見学（若喜商店）
7月21日（日曜日）	【視察】鶴ヶ城 福島県から東京都へ移動 【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成）
7月22日（月曜日）	【交流】ジャパンボウルサポーターズグループ（スモールワールズにて、ミニチュア作品見学、ミニチュア作成） 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表 【表敬訪問】内閣総理大臣夫人 岸田 裕子 氏
7月23日（火曜日）	【視察】深川江戸資料館 成田国際空港及び羽田空港より出国

2. 記録写真

招へいプログラム



7月18日【表敬訪問】在日米国大使館 駐日米国
大使 ラーム・エマニュエル 氏



7月18日【表敬訪問】在日カナダ大使館 一等書記官 スティーブン・ラポイント 氏



7月18日【表敬訪問】高円宮親王妃久子殿下
(注) 写真は本報告書掲載のみ。SNS公開は不可。



7月18日【視察】
須賀神社



7月18日【表敬訪問・交流】
一般社団法人 日米協会



7月18日【視察】
銀座 歌舞伎座前



7月19日【視察】
福島県環境創造センター（コミュタン福島）



7月19日【学校交流】
福島県立喜多方高等学校



7月20日【ホストファミリー歓送会】



7月20日【文化体験】赤べこ絵付け体験



7月21日【視察】
鶴ヶ城



7月22日【交流】ジャパnbowlサポーターズグループ（スモールワールズ）



7月22日【報告会】集合写真



7月23日【視察】深川江戸資料館

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 米国 高校生

アメリカボウルに出場した日本の学生との交流は本当に楽しかったです。私たちも彼らも同じくらいお互いのことに興味津々でした。話すのが楽しくて、立ったままずっと話し続けてしまいました。アメリカ大使館での話もとても印象深かったです。日本語や日本について勉強していることを将来に活かせると知り、より努力しようと思えました。

◆ カナダ 高校生

ホームステイが何より印象に残りました。ホストファミリーは最初から最後まで優しく、心をこめてもてなしてくれて、素晴らしい体験をさせてくれました。このたった一日で、これまでカナダで何週間も日本語を勉強してきたよりもずっと深く日本を知ったように感じています。

◆ カナダ 引率者

高校教師として、日本の高校を訪問して日本の学校や教育について知れたのはとても楽しい経験でした。コミュタン福島は非常に印象深かったです。インタラクティブで魅力的な展示を通して、地震、津波、原発事故について知ることができ、福島を、住民にとっても旅行者にとっても等しく安全で魅力的な土地にするための復興への努力を学ぶことができました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 交流校生徒

英語で話すのは難しく、伝わらない部分もありましたが、分かる範囲の単語で伝えようとしたり、ジェスチャーを使ったりし、楽しくコミュニケーションが取れて良かったです。相手の好きなことや日本との違いなどもたくさん知ることができ、良い経験になりました。

◆ ホストファミリー

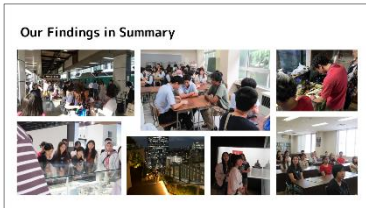
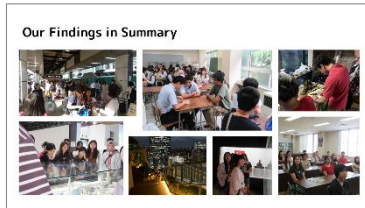
コミュニケーションが取れるか否か心配はありましたが、個人差はあったものの、全員と日本語で会話ができて大変嬉しかったです。

5. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	
2024 年 7 月 18 日（Instagram） 米国 高校生 今日は初めての経験をしました。日本の有名な須賀神社に行ったり、参拝をしたり、お守りを買ったりしました。そして、カケハシのメンバーと一緒に在日米国大使館を訪問しました。今日の経験から、ぜひ大学でも日本語の勉強をし続けたいと思いました。次のアクティビティも楽しみにしています。	2024 年 7 月 20 日（Instagram） カナダ 高校生 東京都から離れ福島県へ到着すると、待ち望んだ新鮮な空気を感じました。 農業で有名な福島県の景色はとてもきれいででした。新鮮な食べ物を食べて、すばらしく親切な人たちに会い、心から感激しました。 ホームステイ（最高においしい食事！）をして、現地の高校でこれまでに会ったことのないような素晴らしい生徒たちにも会いました！ 次は何が起こるのか、とっても楽しみです。
	
2024 年 7 月 20 日（福島民報） 米、カナダのジャパンボウル優秀者 喜多方高生と異文化交流 あすまでホームステイ	2024 年 7 月 21 日（一般社団法人 喜多方観光物産協会の Facebook） 「7 月 19 日喜多方にアメリカとカナダの高校生が 24 名来日しました。」

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

訪問地：東京都、福島県 全3グループ発表

米国（グループA）		
		
【成果の発表】 ■ 気付き 日本の公共交通機関は、とても清潔で効率良く、外国人でも使いやすいです。商店街がある、とても大きな駅もあります。コミュタン福島では、日本の人々が環境を大事にしていること、そして、団結して困難を克服するために努力していることがわかりました。 ■ 将来への展望 今回出会った人たちと連絡を取り続けます。日本語の学習を継続し、日本での留学やインターン、就職に繋がりたいと思います。ゴミ拾いなどのボランティア活動にも携わりたいです。 【アクション・プラン】 地元でのゴミ拾い、省エネルギー、太陽光発電などの再生可能エネルギーを広めることに努めます。日本の清潔さは思いやりからくるものだと言ったため、この価値観を米国に持って帰ります。学校を拠点に実施するほか、フォローアッププログラムやカケハシ同窓生委員会にも参加します。		
米国（グループB）		
		
【成果の発表】 ■ 気付き ・ 日本では誰もが規律を守っていました。 ・ 公共交通機関はとても安全で無駄がなく、時間に正確で使いやすく、そしてとても清潔です。街をきれいに保つために、ゴミをきちんと分別することも徹底されています。 ・ 至るところに自動販売機があります。 ・ 日本人は親切で、多くの旅行者を気さくに受け入れてくれます。 ■ 将来への展望 将来、日本語を活かした仕事への就職の可能性を広げるため日本語能力テストに挑戦するつもりです。 【アクション・プラン】 それぞれの学校で、このプログラムが自分たちの生活や将来にどれほどインパクトがあったかを発表します。また、新入生にジャパnbowlへの参加を勧めます。		

カナダ



【成果の発表】

■ 気付き

東京都：カナダとの強く親密な絆について学びました。城下町としての歴史が残る東京都の都市計画についても学びました。

福島県：桃、米、ベリー類などの農産物や、人と人がより自然につながっている田舎のコミュニティ、かつては戊辰戦争の舞台となり、明治時代には歴史的に重要な県であったことを学びました。

また、原発事故後の安全を確かなものにするため、除染における大変な努力と意欲についても学びました。

■ 将来への展望

日本語の勉強を続けます。日本や外国に留学することや、日本で働くことも考えています。

【アクション・プラン】

日系または日本関連のコミュニティでボランティア活動をします。滞在中、日本人の親切さに感動したので、カナダでも真似したいと思います。帰国後、2ヶ月以内に実施し、それ以降も活動を続けます。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）